

児童学会講演会

演題 子どもとともに育つ保育とは

講師 宮里 暁 美



2022年7月28日水曜日に、別府大学短期大学部初等教育科児童学会主催のもと、お茶の水女子大学教授・文京区立お茶の水女子大学子ども園園長をしておられる宮里暁美氏を講師に迎え、ご講話をいただきました。新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、オンラインによるリモート講演となりました。別府大学短期大学部初等教育科の全学生及び教職員合わせて約450名が参加した。

「知ることは感じることの半分も重要ではない」というレイチェル・カーソンの「センス・オブ・ワンダー」の言葉から「幼児期の教育の役割」「育成すべき資質・能力の3つの柱」「保育者の在り方」「保護者とともに歩む」「子どもとともに紡ぐ保育の物語」「子どもとともに育つということの意味」など、具体的な姿を踏まえてご講話をいただきました。

「幼児期は、周囲の大人からの愛情ある関わりの中で『守られている』という安心感に支えられ、自発的な活動としての遊びを通して、生涯にわたる人格形成の基礎を築いていく時期。その時期において、保育者は『子ども達はどんなことをやりたいと思っているのか』をみつけ、大事にし、共に味わう。そうした豊かな体験を重ね、子ども達と繋がってほしい。保育者は、子ども達の行動に耳を澄まして、目を凝らしてほしい」と語られた。また「子ども達が体験の中で出会う事実の一つ一つが、様々な情緒や豊かな感性となる、それが土壌となりやがて知識や知恵を生み出していくのだ」とも語られた。

「保育現場で日々繰り返されている小さなエピソード。子どもと紡ぐ保育の物語……。一人一人違う個性を持った子ども達と、保育者はどう付き合うべきか。子ども達の細かい言動をしっかりと見とるまなざしが保育者には必要である。保育者は子どもを育ててはいるが、そればかりではなく、それによって自分自身も育てられている。つまり、子ども達の心を育て、自らの心も育てているのだ」とのお話は非常に印象深いものであった。

子ども達の小さな動きに目を止め、保育について思いめぐらし、子どもについての研究と発信を重ねておられる宮里先生。幼児期の教育の役割や保育者の在り方などの多くの視点と、

保育者・教育者を目指す若者たちの明日に繋がる、心に残る、多くのメッセージをいただいた時間であった。

